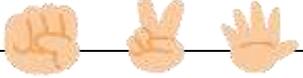


【2.注意機能】 1つの事を続ける、特定の刺激を選ぶ、複数に同時に注意を向ける能力

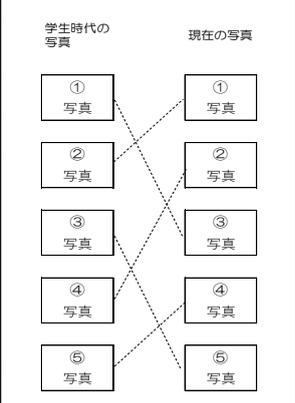
⑥ウォーキングしりとり

【実施人数】	2人～4人	
【ルール】	1、ウォーキングをしながらしりとりをする。 2、「ん」がつけば、それにつながる言葉でも可能 3、楽しんでする	
【実施時の注意点】	ウォーキング中の転倒に注意する、歩きやすい靴をはく	
【おすすめポイント、アレンジ方法等】	脳を活用（活性）しながらの体力づくり	
【作業療法士からのコメント】	外出や移動する際に手軽に取り組みます。 ウォーキングだけでなく、活動の準備をしながらしりとりを試みるのも良いでしょう。慣れてきたら、3文字、4文字などルールを設けてしりとりを試みると難易度も調整できます。	

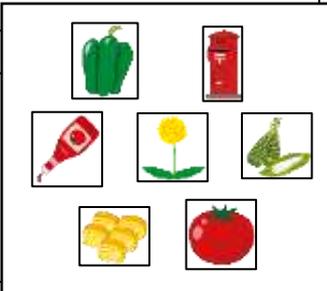
⑦じゃんけん勝ち負けゲーム

【実施人数】	2人～	
【ルール】	リーダーが、「私に勝ってください」、「私に負けてください」と言いながらじゃんけんする	
【おすすめポイント、アレンジ方法等】	リーダーのじゃんけんに対して「右手は勝ってください」、「左手は負けてください」などアレンジする	
【作業療法士からのコメント】	道具も不要で短時間でも楽しめます。みんなでリズムを合わせて行うといいでしょう。足を閉じる（グー）、縦に開く（チョキ）、横に開く（パー）という形で足を使ったり、目を使って両目、片目、閉じたりするやり方でも同じようにできます。 勝ち・負け以外にも、相手が出した指の数と、自分の出した指の数が、足して5になるように指を出す方法もあります。	

⑧本物探し

【必要物品】	写真（学生時代と現在）、白紙、ペン	
【実施人数】	5人～6人	
【ルール】	1、写真をテーブルの上に学生時代の写真と現在の写真を分けてそれぞれ並べる 2、並べた写真に番号をふる 3、ペア（同一人物）を見つけて紙に書く 4、答え合わせをする	
【実施時の注意点】	写真の並べ方を考える	
【おすすめポイント、アレンジ方法等】	写真を探すことから知的活動となる 写真の年代を変えて行う	
【作業療法士からのコメント】	とてもユニークな活動で、休憩時間なども思い出話で社会交流が促進されそうです。パソコンやスクリーンがあれば、ひとりずつ写真を映し出して、誰かを当てる形でもできます。 もし写真撮影・カメラが趣味の方がいれば、ぜひ協力してもらいましょう。	

◎探しものは何ですか？～ルックルックこんにちは～

【必要物品】	お題に沿ったカード（絵や写真）	
【実施人数】	5人～10人	
【ルール】	<ol style="list-style-type: none"> 1、リーダーが、お題を言う （例えば、「赤いもの」、「野菜」） 2、参加者は、カードの中から お題にあったものを時間内に探す 3、一番多くカードを取った人の勝利 	
【実施時の注意点】	曖昧なお題、絵、写真は避ける	
【おすすめポイント、アレンジ方法等】	<p>個人戦、チーム戦どちらでも可 カードを取る時に「こんにちは」と言いながら取ると盛り上がる 1枚の絵や写真から複数のお題が出せる 写真のエピソードについて話す</p>	
【作業療法士からのコメント】	<p>お題に沿って行う「かるた」のように行えます。 グループやペアになって、カードを作るところから知的活動で取り組めます。カードを大きめに作ったり、同じカードを2枚ずつ作るとカードを獲得できる人が増えて、参加者が多くても楽しめます。</p>	